

---

# ALLEGRETTO-アレグレット-

あげぱん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ALLEGRETTO - アレグレット -

### 【Nコード】

N3484J

### 【作者名】

あげぱん

### 【あらすじ】

4月

始まりの月

物語は

一人の少女の駆け出しから始まる……

e i n s a t z - アインザッツ - (前書き)

気分を改めて

新作かいてみました

今作は真剣に取り組んだ作品ですので

もし、気に入っていただけたら

お気に入り登録、ポイント投票 していただけると  
うれしいです！

それが作者の動力源となります

それでは

お楽しみください

e i n s a t z - アインザッツ -

「ちこく、ちこく」

私は音無奏<sup>おとなしかなで</sup>

ちよっぴり大人な15歳？笑今  
とつても急いでます

ただの遅刻じゃありません今日は高校の入学式

お母さんにばれたら死……

\*

昨日の夜

明日の入学式の準備を  
終えた私に  
お母さんが

「高校で遅刻したら、おこずかい500円だから」

と一言行って去った…

\*

高校生でおこずかい500円とか厳しすぎるよお

なんとしても

間に合わなければ…

スピードを上げるために  
足に力をいれた直後…

「きゃっ」

痛あ…

急いでるのに……

「あの、ごめんなさい。急にとびだしちゃって」

「ああ

いいよ、いいよ。それより大丈夫？」

「はい、大丈夫です。」

「よかったあ。じゃあ、私急ぐから」

早く行かなきゃ…

\*

結局、間に合わなかった……

体育館に入ったとき

ちよつと名前が呼ばれて

入口で返事をするという

恥ずかしいことになった

ああ

みんなに変人だと思われたかな？

\*

奏は今、軽音部の部室前にいます

なぜかというと

仮入部するからです

ほんとは

入ること決めてるんだけどまだ入部できないんだって…

じゃあ、部室に突撃！

ガラッ

どんっ！

なに？なにかいる…

「新入生か？」

「はい」

「もうすぐ、新入生歓迎ライブやるから楽しみにしてて」

「はい」

先輩だったんだ

あまりに大きいから  
なにか壁ができたのかと  
思った

）

先輩たちすごい！

きれいな音色、安定したリズム

かっこいい！

「あのお」

「はい？」

誰だろ？

知らない人から

声かけられちゃった…

「覚えてませんか？朝、ぶつかったあ」

「ん？誰だっけ？」

ガン……………

（今朝、会ったのに…）

「あっ！」

「思い出しました?」

「朝、ぶつかって来た人!」

「そうです。水野蒼っていいです。よろしくお願いします」

「奏は音無奏。同級生なんだから敬語じゃなくていいよ」

「はい、じゃない。うん。」

「蒼ちゃんは何の楽器に興味があるの?」

「えっと、ベースかな」

「奏はギター希望だから一緒にバンド組めるね」

「私でいいの?」

「いいよ。蒼ちゃん、可愛いし!」

(最後の理由になるのかなあ?)

やったあ!

早速、友達できちゃった

いい高校生活送れそう!

\*

翌日…

今、奏は蒼ちゃんと  
十屋にきています

目的はあ……………  
楽器を買うことです！

「蒼ちゃん、決まった？」

「まだ。奏ちゃんは決まったの？」

「決まったよ、これ！」

「えっ、これ9万円もするよ」

「ほんとだあ… 値段みてなかった……………」  
「予算は5万円…  
足りない……………」

こうなったら交渉するしかない！

\*

キャラクター紹介

奏

HP12    ATK7    DEF10

属性 天然

店員

HP 103 ATK 38 DEF 29

属性 ケチ

奏は

ギターを手にとった

突如

店員が現れた

戦闘開始！

奏のターン

奏は店のピックを拾った

店員のターン

店員は注意してきた

(店員)

お客様、それは商品なのでとらないでください

奏には効果はないようだ

奏のターン

Cコードを弾いた

店員に7のダメージを  
与えた

店員のターン  
店員は再び注意した

(店員)  
新品のピック使わないでください

奏には効果はないようだ

奏のターン  
Fコードを弾いた

店員に15のダメージを与えた

店員のターン  
店員はギターを手にとった

奏のターン  
奏は速弾きをしだした

店員に30のダメージを与えた

店員のターン  
店員も負けじと速弾きをしだした

奏は聞いてないようだ

奏のターン

奏は店員をこえる速弾きをくりだした

店員は戦意消失した

奏は勝負に勝った！

奏はレベル2になった！

奏は戦利品として

ギターを手に入れた！

そして

店員は店員（負け犬）に変化した

（店員） 負け犬

負けた……………

「やった！ギターGET！」 五万円は支払いました

\*

帰宅後

奏は早速

ギターを弾きました

何故か

いろいろすぐに弾けちゃいます！

才能あるのかな！

あのと

ポチ  
店員さんにきいたところ

「負け犬はかわいそうだからポチと名付けた」

このギターはモッキンバードというギターらしいです  
とりあえず

見た目で決めただけ…

First Impressionが

大事っていうしね

そういえば

蒼ちゃんは「ふえんだー」とかいうメーカーのベースを買いました

奏が交渉たたかいをしているときに

買ったんだって！

今頃、家で弾いてるのかな？

蒼ちゃんはアンプも買ってたなあ

奏はなんかついてきた

去りに際

ポチ  
店員が30Wアンプをどうか持って行ってくださいって言うてくれ  
た

よくわからないけど

くれるってゆうから貰いました」

練習いっぱいして

はやく上手になりたいなあ

(謎の声)

すでに上手いだろう…

その前にボーカルとドラム探さないとね

まあ

そのうち見つかるよね……

ふああああ

なんだか

眠くなつてきちゃったZZZZ

おやすみ

r e l a x b e a r ・リラックスマ・(前書き)

今回は

ほのぼのした話になっています

では

お楽しみください

はあ

いい天気だねえ

こんな日はピクニックに  
行きたくなるよね

というわけで

ピクニックに行こう！

早速、蒼ちゃんに電話しよう

「ねえねえ、ピクニックに行かない？」

「うーん、別にいいけど、どこに行くの？」

「わからない。とりあえず試ってみようよ」

「わかった。何時にいけばいいの？」

\*

2時間後

どこかの森の中

「じじい、どじじい？」

「やっぱり、こうなるのか… 何も考えずに来るからこうなるんだ  
「よ」

「ええー、奏のせい？」

(謎の声)

どう考えてもお前のせいだろ

ん？何か聞こえた？

気のせいかな…

「これからどうするの？」

「どろじよじよ… お腹すいたし、とりあえずお昼食べよう」

「お昼？」

「じゃーん！サンドイッチ作ってきました」

「そんな場合じゃないよ。」

グウウウウウ

「お腹減ってるんじゃない。まずご飯食べよう。腹が減っては戦はできぬっていつでしょ」

「そつだね。食べよう」

「はい、どーぞ」

「わあ、すごい！これ全部、奏ちゃんの手作りなんだよね。すごいなあ」

「そんなことないよ。蒼ちゃんもこれくらいできるよ」

「そうかなあ… 私も料理できるようになりたいな」

「今度、奏の家で遊ぼう。教えてあげるよ。」

「ほんとに？ありがとうございます。うれしい」\*

奏たちがランチタイムを満喫していると  
サンドイッチの香りに誘われてかクマが現れた！

「奏ちゃん、あのクマさん私たちを襲うつもりだよ。どっつする？」

「戦うしかないでしょ！」

\*

キャラクター紹介

奏     L V 2

HP 20   ATK 13   DEF 17

属性   天然

蒼 L V 1

HP 14 ATK 6 DEF 15

属性 内気

クマ L V 5

HP 67 ATK 24 DEF 20

属性 凶暴

\*

奏たちの前に野生のクマが現れた

奏のターン

奏はサンドイッチのバスケットでクマの顔面をなくった

クマに14のダメージを与えた

蒼のターン

蒼は恐がっている

このターン動けない

クマのターン

クマは二人を威嚇した

奏には効果はないようだ

蒼は震えている

奏のターン

奏は再びバスケットでクマをなくった

クマに14のダメージを与えた

蒼のターン

蒼は震えて動けない

クマのターン

クマは子グマを召喚した

奏のターン

奏は子グマにサンドイッチを与えた

子グマは奏になついた

蒼のターン

蒼も子グマにサンドイッチを与えた

子グマは蒼になついた

クマは完全に孤立した

クマのターン

クマはサンドイッチを物欲しそうに見ている

奏のターン

クマに襲わないことを条件にサンドイッチを与えた

クマは奏になついた

クマは戦意消失した  
奏たちの勝利

奏はLv3になった  
蒼はLv2になった

\*

今

奏たちは  
森を歩いてます

ランチ後

ベアとリラ（奏が名付けた）がお礼をしたいって  
いったので  
ついていくことにしました

\*

30分後

奏たちは  
湖に着きました

その湖は

今までにみたことないくらいきれいで  
遠くから見ると光の反射できれいなセロリアンブルーに近くで見ると  
水が透き通って底が見えます

「わああ、きれい。こんなにきれいな湖みたことない」

「私も。迷子になったときはどうしようかと思ったけど、きてよかっただね」

「でしょう。奏に感謝だね」

「結果オーライだよ。でも、奏ちゃん、ありがとう」

「どういたしまして。じゃあ、そろそろ帰る？」

「そうだね。遅くなっちゃうし」

奏たちが帰りかけた  
そのとき

「奏ちゃん！」

「何？」

「わああ、すごい」

湖に夕日の光が差し込んで水面が赤く輝いたので

「キラキラしててきれいだね。」

「うん。やっぱりもう少しここにいたいよっ」

\*

帰宅後

あのあと

奏たちは森を抜け

住宅地まで帰ってきました

もちろん

帰り道はわからないから

ベアとリラに送ってもらいました

「また来るからねえ」

ベアとリラは

とっっても嬉しそうでした

飼えないかなあ

奏の家で…

蒼ちゃんは少し涙目に

なっていました

最初はあるなに恐がってたのに……

今日は

疲れたなあ

もう寝るね

おやすみ

r e l a x  
b e a r  
・リラックマ・（後書き）

次回

新展開！

お楽しみに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3484j/>

---

ALLEGRETTO-アレグレット-

2010年11月21日11時10分発行